



“えん”主催「みんなのコンサート」に参加して

うっぼ
新座市野寺2丁目 打保正三

私の Wife が昨年5月から「デイホームえん」にお世話になっています。ケアマネージャーが見えた際に、このコンサートにお誘いを受け、高校時代から男声合唱を歌っており、音楽ならジャンルを問わず聴くのは大好きで参加しました。

「暮らしネット・えん」主催のコンサートは、今回で20回目となるとのこと。“高齢になっても障がいがあっても、この街で暮らし続けるために、おとなも子どもも共に生きる地域社会を創る”をモットーに地域にこれだけ根付いて幅広い福祉活動をしている日ごろの継続的なご尽力に、まずは敬意を表したいと思います。大変なことですし、素晴らしいことです。

最初にびっくりしたのは、あの中央公民館の体育室が超満員だったこと。200人を超えていたそう。「えん」さんの動員力に感服するとともに、日ごろの活動に対する住民からの信頼・感謝の現れだと思いました。

演奏家について。今回のジャズミュージシャン4人とも海外での演奏経験もあり、場慣れしている。フルートの井上信平さんは存じ上げており、スピーチに愛嬌があって惹き込まれる。4人の演奏の所々で聴かせるそれぞれのフォーバース(ソロ)には会場から大きな拍手を受けていた。15回コンサートでも井上さんをお呼びしているようですね。

曲目も「枯れ葉」「サンセットカーニバル」「Coming home baby」など、なじみの曲ばかりで、井上さんのスピーチと合わせなかなか聴かせていました。とくに「枯れ葉」は私の大好きな曲で、元々はシャンソンですが、1955年ごろからジャズのスタンダードナンバーに編曲されて軽快なメロディー・リズムで奏でられています。ジャズの方も哀愁を帯びていていいですね。

アンコールで歌われた来場者全員による「ふるさと」の合唱。東日本大震災のあと取り上げられることが多くなりましたが、フィナーレにふさわしい曲で、皆さん楽しそうに歌っておられました。

最後に。日ごろは高齢者や障がい者を相手に忙しく働いておられるえんスタッフの皆さんが、「音楽はすべての人の心を結びつけ和ませる」と、企画と実務の準備をして実現されていることに心から拍手を送りたいと思います。ご苦勞のなかで培われた“優しさ”があるから、お客さんにも笑顔あり、かけ声あり、口ずさみあり、拍手あり…楽しいアットホームな雰囲気をつくり出すことができるのでしょう。だからこそ、こういうコンサートで最も大事な「ステージと観客の一体感」が見事につくり出されたのだと思います。参加された老若男女の皆さんが笑顔を浮かべて、リズムに頷きながら熱心に耳を傾けている姿に、逆にこちらが勇気と励ましをいただいたコンサートでした。

どうもありがとございました。